

平成 22 年 6 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 22 年 第 6 回講話

#### 新鮮な驚き

おはようございます。

最初に恒例の質問を致します。初めての方がおられますので、少し説明させて戴きます。論語を読むのに私が一番良いテキストだと思っているのが『論語講義』です。渋沢栄一が口述筆記で書かれたものです。その中に言行省察の法という部分があります。渋沢栄一は論語の「吾、日に三たび吾身を省る」を言行省察の法という言葉に置き換えて、夜寝る時に、今日は誰に会ったか・どういう話をしたか・何の約束をしたかを思い出して納得出来たところで安心して眠るようにしていました。そうするとそれが記憶の中にしっかり留まって、1年後2年後にその方に会った時に、あの時の約束は・・・とすらすらと出てくる。「渋沢老人の記憶術」とご自分でも言っていましたし、世間でもそう喧伝されています。

私もそれを活用させて戴いて質問をしています。

昨日一日、朝起きてから夜寝るまでの間、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が挙がる)

昨日一日、良い日だったなと思える方？

良いことと悪いことを天秤にかけるのではなく、そういうものは主観ですから、悪いことは丸めてふっと飛ばしてください。そしてちょっとくらい良いことがあったらそれを拡大して、良い日だったと思えばよろしい。

昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方？

有難うと人さまから言われることはなかなか難しいです。人さまの為に何かしてあげなければ、有難うと返ってきません。役職・ポストが上がれば上がるほど、人さまから有難うと言われる機会が減ると思います。又、感受性が鈍いと、言われていても分からなくなります。

健康を気にしておられる方はどれくらいおられますか？

その中で、何か健康に良いことを昨日一日のうちでされた方？

私は1日1万歩以上歩くようにしています。毎日必ずと決めると難しいですから、1ヶ月

間トータルで見て、歩けない日は他の日で調整しています。

今月に入ってから、何か新鮮な驚き・感動を覚えたという方？

(・・・沢山手が拳がる)

後ほど、手の拳がった方に発表して戴きます。

## 足るを知る

中斎塾フォーラムでは「足るを知る」(あまりがつかつかしない、ほどほどで行こう)を基本哲学としています。会社も売上げ増、売上げ増と右肩上がりをしていけば、どこかで壁があって潰れることになっています。右肩上がり一辺倒というのは怖いのです。ほどほどのところで自制する心がないと色々な歪みが出ますから、「足るを知る」という考え方で一生を生きてゆく、或いは会社を経営してゆけば良いと思います。

中斎塾フォーラムの中では、自然と「足るを知る」という考え方が身に付くように話を進めていきたいと思っています。日々の生活で、家庭の中で、会社の経営の中で、判断を求められることが多々あります。その時に判断基準を持っていないと、どうしてよいか分からない。中斎塾フォーラムの中では、判断基準が知らず知らずの間に身に付くようにしたいと思っています。

ちなみに私自身は「利によりて行なえば、怨み多し」という言葉を、判断基準の最たるものにしてしています。これは渋沢栄一が一生を貫く言葉として大いに活用しています。『論語講義』の中でも沢山この言葉を出しています。「利によりて行なえば、怨み多し」・・・目先の欲につられて飛びつくと、必ず後で厄介事が起きる。怨みという言葉を実岡正篤先生は厄介事と解釈しました。

## 論語から今を見る

論語は、現代に置き換えて読む。これが論語の読み方と思って下さい。

本日の論語は、雍也第六 3～8です。

【三】子華 齊に使う。冉子 其の母の為に粟を請う。子曰く、之に釜を与えよと。益さんことを請う。曰く、之に庾を与えよと。冉子 之に粟五秉を与う。子曰く、赤の齊に適くや、肥馬に乗り、輕裘を衣たり。吾 之を聞く、君子は急を周いて、富めるに継がずと。原思 之が宰と為る。之に粟九百を与う。辞す。子曰く、毋かれ。以て爾の隣里郷党に与えんかと。

子華は孔子の弟子で名は公西赤です。冉子は孔子の執事役で、大番頭さんのような役です。孔子が子華を齊の国に使いに出しました。冉子は留守宅のお母さんの為に粟（穀物）をあげて下さいと孔子にお願いしました。

孔子が「釜（一斗一升二合）をあげなさい」と言いました。

冉子は孔子もケチだなと思ったのでしょうか。もう少し増やしてあげて下さいと言ったところ、孔子が「庾（二斗八升）をあげよう」と言いました。それでもまだ足りないと思ったので、冉子は孔子に黙って粟を五秉（十四石）をあげました。

それを知って孔子が、「使いに出す子華の家は金持ちだ。しかも使いに行くのに良い馬に乗って良い皮衣を着て出かけていったと聞いている。足し増しをしなくても十分やっつけける。君子たるものは困っている者は助けるけれども、金持ちには余分に出さないものだ」と言いました。

原思は孔子の弟子で、かなり貧乏でした。

孔子が魯の国でかなり勢力を持っている時に、原思に代官を命じました。そのお給料が粟九百（百石）でしたが、原思はこんなに貰えないと辞退したので、孔子が「決められた給料を断る奴があるか。きちんと貰いなさい。申し訳ないと思うのであれば、お前の隣近所に分けてやればよい」と言いました。

孔子は金持ちの子華とは対照的に、貧しい原思には十分な給与を与えようとしたわけです。

今の時代に置き換えて、子供手当をキーワードに考えると分かりやすいと思います。金持ちにも貧しい者にも外国にいる子供の分もということですが、鳩山さんは子供手当を言い出した時に、全て社会で面倒を見るのだという発想で皆等しく平等にと考えたのでしょうか。しかし現場はかなり困っています。良いか悪いかという事は別にして、実際に進んでいくと、お金が無いのにあげている状況です。高校の無償化や高速道路の無料化といったばら撒きについては対象をどこまでにするか、この部分を考えてとわかりやすくなると思います。孔子は金持ちにはあげない、貧しい人にはあげると言っていますが、その按排が上に立つ人は難しかろうと思います。

【四】 し子 ちゅうきゅう仲弓 いを謂いて曰く、いわ犁牛の子、りぎゅう驛くして且つ角あ**ら**ば、こ用うる**こと**勿**か**らんと欲**す**と ほつ雖も、いえど山川其れ諸れを**あ**げてんやと。さんせんそこす

孔子が仲弓を批評して言いました。

犁牛の子は、農耕用の鋤を引く牛で本来であればやせ細ってあまり役にも立たないような親から生れた子という意味です。仲弓が賤民の子であったことを象徴しています。

犁牛の子でも赤毛で立派な角を持っていて、丸々として荷物を引く力がある牛であれば、人々が祭のいけにえにあてないでおこうと思っても、山と川の神様は受け入れるであろう。

仲弓は非常に人徳に勝れていて人の上に立つ能力がありました。ですから孔子は、仲弓は今世に出ていなくても必ず世に出ることであろう。能力があつて徳のある人間は必ず世に受け入れられるものだと言っています。

菅総理は従来のいわゆる二世三世ではなく、市民運動から出てきました。非常に目だっていますから、赤毛の角があるような人物であろうと思います。能力はあるだろうと思いますが、仁徳に勝れているかどうかは疑問符です。ただ自己顕示欲は強いようです。小沢さんと代表戦を戦った時に負けそうになったら、あなたが勝ったら私を代表代行にして欲しいと裏取引をして代表代行になったとか、かなり権謀術数は使う人だろうと思います。

菅さんという人物を判断する時に、動機が如何にあるか（どういう動機でやっているか）と、徳行（道徳に勝れているか）を見ていかなければならないと感じます。つくづく仲弓のような人物が世の中にいれば良いなと感じます。

【五】 しいわ 子曰く、かい 回やそ 其の心 さんげつ 三月 じん 仁にたが 違わず。其の余は そ 則 すなわ ち日 ひ に月 つき に至るのみ。

孔子が言うには、顔回は素晴らしい。顔回の行っていることをみると、長い年月すべて仁の道から外れていない。その他の弟子たちは一所懸命仁に近づきたいと思うが、一日だけとか一ヶ月だけ仁に近づいたことがあるという程度の者ばかりだ。

顔回は心に私欲が無い。それでいて世の中の役に立つような人物です。今の日本で考えるとなかなかありませんが、天皇陛下と皇后さまの日常をマスコミ等で聞くと、私欲を抑えて世の中の為に行動されておられるので、お二人が思い浮かびました。

【六】 きこうし 季康子 と 問う、ちゅうゆう 仲由は まつりごと 政 したが に従わしむべきかと。子曰く、しいわ 由 ゆう や果 か なり。政 まつりごと に従うに於て何か有らんと。曰く、したが 賜 おひ や なに 政 あ に従わしむべきかと。曰く、したが 賜 いわ や し 達 たつ なり。政 まつりごと に従うに於て何か有らんと。曰く、きゆう 求 まつりごと や したが 政 あ に従わしむべきかと。曰く、きゆう 求 げい や藝あり。政 まつりごと に従うに於て何か有らんと。

季康子は魯の国の宰相です。

季康子が自分の国で孔子の弟子を使いたいが、子路はどうかと聞きました。

孔子が「子路は決断力があるから、政にあたるのに何も問題はありません」と答えました。

次に、子貢はどうかと聞きました。

孔子が「子貢は見通しがきいて非常に利に明るいから、政にあたるのに何も問題はありません」と答えました。

次に冉有はどうかと聞きました。

孔子が「冉有は才能に富んでいるから、政にあたるのに何も問題はありません」と答えました。

自分の弟子を推薦した科白です。人の長所を見出して政治にあたらせるという孔子の姿勢が表れています。

安岡正篤先生の「六中観」の中で、「意中人有り」という言葉があります。総理大臣の心構えとして、安岡正篤先生が各総理大臣に指南しています。総理になる時は晴天の霹靂になるものではない。なろうと思って準備に準備を重ねてなるものだから、総理になった時にはそれぞれの大臣は誰であるとか、文部大臣は誰であるとか、腹の中に決めておかねばならない。意中人有り・・・自分の意の中に人物をそれぞれ持っていなければ、総理大臣になった時に総理としての職務を果たせないというわけです。

鳩山さんが総理大臣になった時には、長妻さんには他のポストを予定していました。厚生労働大臣には仙谷さんを当てようと思っていました。しかし長妻さんに断られたから、すぐにコロコロと他の大臣に代えるような大臣の決め方は如何なものかと感じます。もっとも鳩山さんは、総理大臣になってから普天間問題を勉強しますというくらいですから、総理になるべくしてなったという人ではなかったのだと感じます。

【七】 き し びん し けん ひ さい た びん し けん い わ よ わ た め じ  
季氏 閔子騫をして費の宰為らしめんとす。閔子騫曰く、善く我が為に辞せよ。  
も わ れ ふ た た あ す な わ わ れ かな ら ぶん ほ と り あ  
如し我を復びすること有らば、則ち吾は必ず汶の上にならんと。

閔子騫は孔子の弟子です

季氏が閔子騫を費というやっかいな地域の代官にさせようと思って、孔子に依頼しました。閔子騫は「よくよく私の為に辞退して下さい。季氏は非常に悪名高くて、あのような人物に仕えたくはない。もし私を再度要請するようなことがあれば、私は魯を去って齊の国に行ってしまうであろう」と言いました。

無道の君主には仕えない。主君を選びなさいということです。亀井さんが大臣を辞めましたが、連立はずっと続けています。無道の君主なのか有道の君主なのか、菅さんが二枚舌を使う人なのか見究めて、そうであればさっさと大臣を辞して連立も降りればよかろうと思います。

【八】 はくぎゅう やまいあ し これ と まど そ て と いわ これ うしな めい  
伯牛 疾有り。子之を問う。窓より其の手を執りて曰く、之を亡わん。命  
こ ひと こ やまいあ こ ひと こ やまいあ  
なるかな。斯の人にして斯の疾有るや。斯の人にして斯の疾有るやと。

善行を積んでいる徳の高い伯牛という弟子がらい病にかかりました。孔子が見舞いに行き、窓から手を差し伸べて伯牛の手を握って、「もうこれは命がないな。天命なのだろうけれども、こういう良い人柄の人がこういう病に倒れるとは実に悲しいことだ、残念なことだ」と何回か諦めのため息をつきました。

らい病ですから、手も爛れているわけです。人間の素直な感情として、爛れた顔を見るよりは爛れている手を握る方が、伯牛としては気持ちやすむのかなという気がします。

周りを見渡しても、良い人、能力のある人はどうも若死にをするようでございます。『渋沢論語』では、大亦興治という人を挙げています。大亦興治（おおまたおきはる）は母親が渋沢栄一郎の召使になった関係で、16歳で渋沢栄一の邸宅に住み込んでいました。学校には行っていませんでしたが勉強がよく出来て、読書が好きで新聞を精読し、分からない事があると渋沢栄一に質問をする。その質問も要領を得ていて、説明をきちんと理解する。素晴らしい才能だということで、22歳の時に第二十銀行の支配人にしました。これは素晴らしい実業家になると思っていたら、肺病で24歳で亡くなってしまった。渋沢栄一は顔回を亡くした孔子の気持ちが分かると書き残しています。

ですから非常に素晴らしい人物、大人物になりそうな人は早死にをするそうです。我々は早死にをしていませんから、一所懸命刻苦勉勵することによって少しずつ前に進んでいけるのだらうと思います。

論語は、とにかく読むこと。すらすら読めれば初級合格です。そしてだんだん抑揚が付いて来ると、更に良くなります。読み方はその人それぞれで良い。自分の気持ちにぴったりのような読み方をすればよろしいと思います。

ずっと読んでいくと、少しずつ意味が分かってきます。素読だけしていても伝わってき

ます。そうすると、学者の先生の解釈が知りたくなる。そして実に良い科白だなと思う言葉に出会えます。そうすると中級です。座右の銘を聞かれた時に、それがずっと出てくる。心の中に良い言葉が染み込むと、困った時に浮かびます。それくらい染み込むとよろしい。仕事や日常生活で色々な問題が生じた時に、良い科白が浮かぶかどうか。渋沢栄一は、困った時に論語を開くと必ず答えが書いてあると言っています。渋沢論語の良いところは、自分が具体的に困った時にどう処理したかが詳しく書いてあります。

上級編になると、読んでいて登場人物が動き始める。映画を見ているような感じで論語が読めるようになれば合格です。

### **無礼無義日本**

では後半のお話しに入りましょう。今、皆さん自然と礼をしました。菅内閣では色々な会合の時、国旗に向かって一礼をしないで通りすぎる閣僚が多いようです。テレビでご覧になった方もおられると思います。

日本の国は今、どんどん落ちていると思います。朝起きて「おはようございます」「行ってきます」、或いは「有難うございます」といったごく普通の挨拶が出来ていない。怖いと思います。私の会社でも教育訓練の一環として、出入りの際の一礼、国旗・社旗に対する礼を徹底しています。いつのオリンピックでしたか、日本の高校生が集団で観戦していて、メダルをとった国の国旗が拳がった時に、周りの人たちが敬意をはらって立っているにもかかわらず、日本の高校生の集団だけは椅子に座ったままでした。先生も起立するように指示していない。周りの目に気付いて、ぽつぽつ立ったそうです。学校で礼儀作法・躰を教えない。親も教えない。子供たちは礼儀作法を教わる機会がなくなって、結果としてそういう体たらくになったのだらうと思います。ですから周りにいる子供たちに良くない事は良くないと教えてあげることが、大人の義務だと最近思っています。教えるべき時に教えておくと、大人になっても効果があるものです。

### **時事問題 - 最近気になっていること -**

本日紹介する書籍は、『カレント』6月号です。1月から始まった私の連載は、これで終了です。この原稿を書いた時は5月早々ですから、次のように書いておきました。

カレント 6月号がお手元に届く頃は、鳩山さんは退陣しているでしょう。その後は菅さんか仙谷さんが総理大臣になっていると思います。もし鳩山さんがぐずぐずと総理

大臣の椅子にしがみついていると、民主党の支持率は10%台で参議院選挙に突入するだろう。

6月1日には鳩山さんが退陣しませんでした、すぐその後に退陣し菅さんが首相になりましたので、書いたものが当たりました。

私の師匠である木内信胤先生が亡くなる前に、「私はこれから予測学という学問をやろうと思う」と言っておられました。事実を事実通りありのまま見つめていると、何か自然と先が見えるような気がします。

どうも日本の国というのは人さまの足を引っ張る国で、目立つのは良くないようです。具体的なことを申しますと、上場企業の役員報酬について、1億円以上貰っている人は公表するというルールが出来て実行されました。今回はソニーの会長が年収8億円という見出しがありました。しかしよく読んでみると、基本のお給料は3億円で、他にストックオプション等で8億になったようです。副社長は1億6000万と出ていましたが、退職金を含んでいるそうですから、確かに役員報酬には違いないけれども退職金まで公表するのは如何なものかと思えます。こういう制度は良いことか悪いことか、なかなか難しいと思えます。それだけ貰えるなら努力したいということになるのでしょうか……。

月々1500万も親から小遣いをもらっている首相がいましたが、お金持ちになって何か良いことがあるのかと考えた時に、お金を貰って政治家になって、人から叩かれてペコペコ頭を下げているのがテレビで映る。それを見た子供たちは、あまりお金を沢山貰わなくてもいいやと思うのではないのでしょうか。知足の「ほどほど」が、ちょっと違った形で出ているような世の中だと思えます。

自分の出処進退を明らかにしない政治家が増えたように感じます。本当かどうか分かりませんが、小沢さんと鳩山さんが話をした時に、小沢さんが「私を道連れに辞めまうと言ってはどうか」という会話があって、その上で鳩山さんが記者会見をしたという穿った話も聞かれます。いずれにしても二人とも一応は退いたわけです。鳩山さんはもう次の選挙は立候補しないということですから、これは良いと思えます。一方の小沢さんは、自分の師匠の退き方を見て、何も考えていない人だなと感じます。

参議院議員会長の興石さんは、山梨の教職員組合から平成16年に3300万円貰っています。小林千代美議員は北海道の教職員組合から1600万円貰って、叩かれて辞職をしました。それと比べても倍以上貰っているのに、なぜ興石さんは辞任しないのでしょうか。議長職が目の前にぶら下がっているからでしょうか、目先の欲にかまけて辞職しないしていると、

そのうち雪隠詰めで辞めさせられるだろうと思います。

出処進退については、世の中に出て行く時は周りから引っ張られたり、押し出されたりするけれども、辞める時は自分の意思で辞めなければいけないと思います。

18日から貸金業者の規制が強化されました。それによって、主婦の人たちがどんどんヤミ金に走る。日本の国は一つの法律を作る時に、正しいと思うことをやるのですが、それに対する負の側面については、あまり思いを致していないという気がします。ですから一般の国民の立場では、法律が出来る時・出来た後をよく見て、ずっと追いかけて行って、本当にこの法律が良いものか悪いものか、どういう影響があるのかを見究めなければならないと思います。

これから景気がどんどん悪くなります。私が氣をつけて見ていこうと思っているのは、生活保護費がどれくらいになるかです。おそらく生活保護費は、今の子供手当の金額を抜くと思います。子供手当でばら撒く金額は、どんどん縮小される。生活保護費については、実数は見えませんが3兆円は見えています。これは下手をすると、歯止めを利かさなければわずか数年で倍になってくると思います。

我々が氣を付けることは、これから世の中はもっともっと酷くなる。来年の今頃は景気が凄まじく悪化します。ですから自分で食べものを作るような準備をする。お金も、笹筒預金が良いのか、どこかの銀行に預けるのが良いか、外貨預金が良いのか等々一所懸命考えて、1年後にはそれなりの手を打っておかなければいけません。そういう時代に入ったと思っています。

以上で本日の講話は終了です。有難うございました。